

千葉市予防接種実施要領

（目的）

第1条 この要領は、千葉市（以下「甲」という。）が社団法人千葉市医師会（以下「乙」という。）と締結した健康増進事業等実施協定（以下「協定」という。）及び千葉市予防接種事業委託契約（以下「契約」という。）に基づき実施する予防接種業務の円滑な運営を期するため、必要な事項を定めるものとする。

（医師の推薦及び公告）

第2条 協定第5条第1項に規定する推薦依頼を受理した乙は、協定第5条第2項に基づき、該当する医師の氏名を書面により速やかに甲に通知するものとする。

2 甲は、予防接種法施行令（昭和23年政令第197号）第4条に該当する医師（以下「丙」という。）のうち、個別接種を行う丙の氏名及び予防接種を行う主たる場所を公告すること。

（実施計画）

第3条 甲は、集団予防接種の実施日時及び場所等の選定については、あらかじめ乙と十分協議し、交通の便、接種予定人員等を考慮のうえ行うこと。

2 甲は、集団予防接種の実施日時、場所及び接種人員等を決定したときは、乙及び乙の地区代表に丙の派遣を文書によりもって依頼すること。

3 甲は、予防接種実施計画書の作成を完了したときは、これを丙に送付すること。

（集団予防接種会場）

第4条 甲は、集団予防接種にあつては会場の施設長と事前に協議のうえ、その協力を十分得られるように努めること。

2 甲は、前項の場所の設定については、接種予定人員に応じた広さであつて、採光、換気等に十分な窓の広さ及び照明設備等を有する清潔な場所を確保すること。また、冬期には十分な暖房設備を備えておくこと。

3 甲は、予防接種会場の設営にあたっては、定期の予防接種実施要領（平成20年3月21日付け健発第0321008号厚生省保健医療局長通知「定期の予防接種実施要領の一部改正について」）に従つて会場の環境整備を行い、従事者の分担する業務については必要な指示又は注意を与え、混乱を生じないように十分配慮すること。

4 甲は、会場に、救急の処置に必要な医薬品、備品等を配置し、あらかじめ救急処置のできる場所を確保しておくこと。

5 甲は、万一の故障に備えて予備の接種用器具を直ちに使用できるようにしておくこと。

- 6 甲は、会場に、丙のために駐車場をあらかじめ確保しておくよう施設長に指示を与えておくこと。

（予防接種実施時間）

第5条 集団予防接種における丙の執務時間は、原則、午後1時30分から午後3時までとする。

（受付）

第6条 会場の受付従事者（以下「受付従事者」という。）は、接種当事者であることを証する書類（予診票等）の提示を求めるなど適当な方法により、当該予防接種を受けるべき者であることを確認すること。

- 2 受付従事者は、被接種者の提示する予診票を点検し、記入不備のものについては記入させること。
- 3 受付従事者は、受付時間を午後1時30分から午後2時30分までとし、丙の執務時間に支障がないように努めること。

（予診、接種不適合者及び接種要注意者）

第7条 予診は丙が行い、予診においては、あらかじめ予防接種予診票を配布し、各項目について記載のうえ、これを接種の際に持参するよう指導すること。

なお、予診票については、予防接種の実施に際し、混乱を来すことのないよう予防接種の種類により異なる紙色のものを使用すること。

- 2 接種前に必ず問診、検温及び視診並びに聴診等の診察を行い、検温は接種施設において行うこと。
- 3 予診の結果異常が認められ、かつ予防接種法施行規則（昭和23年厚生省令第36号）第2条に規定する接種を受けることが不適当な者に該当するものに対しては、原則として当日は接種を行わず、必要がある場合には精密検査を受けるよう指示すること。
- 4 接種の判断を行うに際し、注意を要する者については、被接種者の健康状態及び体質を勘案し、注意して接種することが必要であること。

なお、接種の判断を行うに際し、注意を要する者は次のとおりであること。

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する者
- (2) 前回の予防接種で2日以内に発熱のみられた者又は全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
- (3) 過去にけいれんの既往のある者
- (4) 過去に免疫不全の診断がされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
- (5) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーを呈するおそれのある者

(6) 結核に係る予防接種にあっては、過去に結核患者との長期の接触がある者その他の結核感染の疑いのある者

- 5 集団接種において予診を行う場合には、接種場所に接種を受けることが不適当な状態等の注意事項を提示し、又は印刷物を配布して、接種対象者から健康状態、既往歴等の申し出をさせる等の措置をとり、接種を受けることが不適当な者の発見を容易にすること。

(予防接種の実施計画等)

第8条 接種は、丙が予防接種実施計画に基づいて行うものとする。

- 2 甲は、集団予防接種にあたり、ゆとりをもって接種が行われるような人員の配置に配慮することとし、予診の時間を含め、医師2名を中心とする1班が、1時間に対象とする人員が概ね40人から50人程度となるよう計画するものとする。

なお、医師1名により予診及び接種を行う場合には、これを標準として接種対象人員を調整すること。

- 3 接種を行う1班は、予診を行う医師1名及び接種を行う医師1名を中心とし、これに看護師、保健師等の補助者2名以上及び事務従事者若干名を配して班を編成し、それぞれの処理をする業務の範囲をあらかじめ明確に定めておくこと。
- 4 班を編成して実施する際には、班の中心となる医師は、あらかじめ班員の分担する業務について必要な指示及び注意事項を行い、各班員は指示された事項以外は自己の判断のみにより行わないようにすること。

(事故発生時の措置)

第9条 甲は、予防接種に伴う事故を早急に把握できるよう乙及び丙との連絡を徹底し、緊急時にはいつでも対応できるよう、その方法について関係職員及び関係機関に周知徹底しておくこと。また、第一次の緊急措置後の第二次の救急病院を確保しておくこと。

- 2 集団予防接種会場において事故が発生した場合には、会場における丙は直ちに予防接種を中止し、看護師及び職員等と協力して必要な緊急処置、医療機関への移送等適切な措置をとること。
- 3 甲は、被接種者から健康被害発生の連絡を受けた時は、主治医の診察を受けるよう指導し、その結果については確認のうえ、その都度乙へ報告すること。
- 4 予防接種に起因していると思われる健康被害の例（予防接種との関係が否定できない事故で死亡し又は通常生ずる副反応の程度を超えて入院又は専門医の精密検診及び加療を要すると判断された者をいう。）を診察した医師は、ただちに甲及び乙に連絡すること。
- 5 甲は、必要な場合は速やかに医療専門家等により構成する委員会を開催し、処理にあたることができるよう必要な体制を整えておくこと。

(個別接種に関する事項)

第10条 甲が行う個別接種に関する事項については、別に定める「千葉市個別予防接種のてびき」により行うものとする。

(広報)

第11条 甲は、乙、千葉市保健所及び学校等の協力を得て市政だより（全市版）、市政だより（区版）、ポスター、パンフレット、母親&父親学級及び講演会等のあらゆる機会をとらえて、予防接種の意義、予防接種不相当者及び接種注意者等についての正しい知識を被接種者及び保護者に与えるよう啓発普及を図ること。

(報告)

第12条 甲は、集団予防接種終了後、接種人員、派遣医師数等を文書をもって報告すること。

(規定外事項)

第13条 この要領に定めるもののほか予防接種の実施に関し必要な事項については、その都度甲乙協議して定めるものとする。

付 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

この要領は、平成20年4月1日から実施する。

この要領は、平成24年4月1日から実施する。